

聖徒のための情報誌

今月号の内容

- お彼岸を迎えて(1面)
- 各地の清道衆講習会の報告
- よろこびちゃんの質問箱(2面)
- 法華経のお話・よろこび佛教語解説・日蓮大聖人の歩まれた道(3面)
- よろこび法話(4面)

平成25年(2013年)3月1日(金)

3月号

発行所  
〒101-0051  
東京都千代田区神田神保町3-25-11  
九段中央ビル702  
日蓮宗霊断師会九段事務所  
電話 03-6272-9340  
FAX 03-6272-9341

日蓮宗霊断師会

会長 新聞 智雄  
編集人 松本 恵昌  
購読料 1部 105円  
毎月1回1日発行

日蓮宗霊断師会ホームページ  
http://www.yorokobi-reidanshikai.jp  
よろこび投稿メール  
yorokobi@yorokobi-reidanshikai.jp

# お彼岸を迎えて

貪(むさぼり)・瞋(いかり)・痴(ぐち)の三毒を考える



日蓮宗霊断師会  
総合研究所 九識霊断法研究部長  
愛知県名古屋市妙泉寺聖徒団団長

石黒 泰 良

## ◇お彼岸とは

『お彼岸(ひがん)』は、春分の日・秋分の日を中日として、前後それぞれ三日を合わせた七日間で、最初の日を「彼岸の入り」、最後の日を「彼岸明け」といいます。こよみを見ると、「××週間」「○週間」と実に多くの週間が設けられています。彼岸はそのはしり、聖徳太子の頃から始まった修行週間です。

修行は毎日欠かすことのできない大事なことです。お互い生活に追われているのでなかなか思うようにはいきません。そこでせめて年二回、春秋の



お釈迦さまは、「人間は賢い動物であるから、貪(むさぼり)・瞋(いかり)・痴(ぐち)の三つの毒、つまり三毒(さんどく)を持っている。その毒は成長と共に心の奥深くに入り込み、やがて健全な心を見失わせる。」と説かれました。三毒とは実に恐ろしいもので、私たちの人生を狂わすほどの力を持っています。では三毒から逃れる方法はあるのでしょうか？

中学生の頃、「西遊記」というTV番組がありました。初代西遊記は、孫悟空：堺正章、三蔵法師：夏目雅子、猪八戒：西田敏行、沙悟浄：岸部シローというキャストでした。番組のテーマソングとして「モンキーマジック」「ガンダーラ」なども大ヒットしました。西遊記は、玄奘三蔵法師が孫悟空、猪八戒、沙悟浄をお供にして天竺(インド)へ行き、経典を中国長安(西安)に持ち帰るといってお話です。

宗祖日蓮大聖人は、その三毒を清める方法として、懺悔(さんげ)を教えてください。自分の中に三毒があることを自覚し、今まで自分がしてきた行為行動を振り返り、自分自身の過ちや悪業を本仏様に向かつて反省し、改めることを誓うのです。

**津軽宇田山 閻法寺**

3月20日 午前9時半より  
「春季彼岸水子供養会」  
3月23日 午前10時より  
「海上大施餓鬼流し供養会」  
春彼岸一週間  
午前5時20分より水行修行会

〒030-1403  
青森県東津軽郡外ヶ浜町平館元宇田52-2  
TEL 0174-25-2712

住職 工藤 堯幸  
副住職 工藤 堯慎・修徒 工藤 堯顯

**日蓮宗 東光山妙正寺 聖徒団**

妙正寺聖徒団 笠原明男

3月17日(日)11時  
春季彼岸会塔婆供養  
毎月1日午前10時  
盛運祈願会

妙正寺聖徒団 団長 関 龍雄  
〒071-1423  
北海道上川郡東川町東町2丁目6-3  
TEL 0166(82)2714  
FAX 0166(82)2914

いかされるよろこび

**美濃乃國 常唱寺 聖徒団**

〒501-3734  
岐阜県美濃市千畝町2738-2  
TEL/FAX 0575(33)1430

**妙顕寺**  
本山 佐野 日蓮大聖人御真骨奉安

齊藤日軌貫首著  
「日蓮宗の戒壇、その現代的意義」  
国書刊行会

CD「感謝百万遍陀羅尼」  
CD「ないないブルース」

好評発売中!

〒327-0843  
栃木県佐野市堀米町264  
TEL 0283-22-1524  
FAX 0283-22-4194  
http://www.sano-myoukenji.jp

日蓮宗霊断師会会長  
感通寺聖徒団団長  
新聞 智雄

〒162-0044  
東京都新宿区喜久井町39  
TEL 03-3209-8782  
FAX 03-3208-7966



◇三毒のコントロール

三蔵法師は、三人の供と一緒に救われることを願いました。いつもトラブルを起こす三人ですが、いなくなったら旅を続けられませぬ。三毒の煩惱から逃げるのではなく、それを制御、コントロールするよう精進努力することが大事なのだといいたのです。

三毒を無くすことはできません。しかし、三毒と共存することに「気づく」ことは、できます。「気づく」ところに、私たち人間の限り無い可能性があるのです。常に自分という人間の「弱さ」「危うさ」を自覚し、三毒の爆発を押さえて行くしかないのです。

◇西遊記

出来ることは、私達が生まれながらにして三毒を自分の中に持っていること。そして、三毒の恐ろしさを認識することです。

◇三つの毒

私達ながらありません。三毒は、生まれながらにして私たちの身についているのです。いまさら消し去ることは出来ませぬ。私たちに

### 北海道平取町照恵寺に於いて「節分会祈禱法要」を厳修!

二月三日節分の日、北海道平取町照恵寺聖徒団・品田祥皓団長(本部・指導局指導部長)に於いて、「節分会祈禱法要」が厳修された。

当日は前日の気温五度から一変、マイナス七度の気温に強風も吹き、体感温度はマイナス十度を越えたが、本部より阪口映徳講師(組織局局長)を「一日伝道」講師に迎え、参詣の聖徒・壇信徒は三〇〇名を超えた。

午後十二時半より、品田団長、阪口講師、近隣寺院僧侶による水行が行われ、祈禱法要に先立ち開催され

た「一日伝道」の法話では、阪口講師が「笑顔は仏様の形相」「春夏秋冬、季節の節目が節分であり、この冬から春に向けての節分がなぜ大事なのか」などを、解かり易く話された。

祈禱法要では、まず星祭除厄の修法が行われ、同寺に先代住職より受け継がれている厄の拭き取りが厄年を迎えた七〇名余の方々一人一人に行われ、今年一年の無病息災・家内安全が祈願された。引き続き、品田



節分会祈禱法要「水行」



阪口映徳講師(本部・組織局局長)



300名を超える聖徒・壇信徒の方々

団長の「福は内」の発声の下、豆まきが行われ、歓喜の音が上がった。また特別祈禱では参列者一人一人に撰経(せんけい)があてられ、守護神感得者、俱生(くせい)神月(しんげつ)守(まも)り着(き)る者には一年に一度し

が使われない大黒撰経による修法もなされて、品田団長の「本年も家族一同が元気に生活し、良い年に致しましよう」との挨拶で「節分会祈禱法要」の全日程を終えた。

### 各地で「清道衆講習会」を開催!

#### 青森県青森市・蓮華寺に於いて

昨年十一月十八日、青森県青森市蓮華寺聖徒団に於いて第五回「清道衆講習会」が開催された。

この日、市内は初雪の予報があり悪天候であったが、早朝より一〇〇名の聖徒が集まり、午前九時半より角田堯淳団長御導師の下、開講式が行われた。

出向講師は、吉田亮善講師(本会副会長)と戸田雅子講師(本部教学・霊断法解説講師)のお二人。

吉田講師は釈尊の教えや聖徒団の信仰を、戸田講師は新しい仏教の誕生・生きた宗教の教えについて、全四講に及ぶ講習内容を交互に講義した。

受講聖徒は、初めは緊張した面持ちであったが、両講師の熱のこもった解りやすいお話しにちらほらと笑顔も見え始め、「仏になるのでは無く、皆仏の子なのだ。私達はすでに仏である。」との言葉に、お題目がどれだけ素晴しいかという事をあらためて気付かされ、最後の最後まで熱い眼差しで講習を受けていた。この日、青森市は初雪が降り、冬



講習会の模様

の訪れを感じさせる寒さであったが、両講師、受講聖徒の心の温かさ、魂の熱さで広い室内は熱気に満ちあふれ、心地良い温度となっていた。午後四時、講習会終了。受講生徒にこの度の感想を伺ったところ、皆口々に「楽しく、大変勉強になった。また来年も来たい!」という声が多く聞かれ、今年もまた充実した、心と歴史に刻まれる素晴らしい講習会となった。

#### 北海道上川郡東川町・妙正寺に於いて

昨年十一月二十五日、北海道上川郡東川町・妙正寺聖徒団を会場に、第九回「妙正寺清道衆修行講習会」が開催され、本部講師として、岩手

県より三浦恵伸師(本部総合研究所副所長)、神奈川県より戸田雅子師(本部教学・霊断法解説講師)をお迎えし、男女併せて三十四名の聖徒が受講した。

午前九時より関龍雄団長御導師の下、法味言上。受講者全員で読経の後、午後三時半まで四講に亘る講義が行われた。

第一・二講ではお釈迦様の教えがどのように生まれ、世界に広がっていったか、そして、日本に伝来した

数ある仏教経典の中で日蓮大聖人様はどうして法華経を選ばれ、不借身命の決意で布教に邁進されたのかを

ご講義頂き、第三・四講では日蓮大聖人様の教えを生きた宗教、生きた教えとして、私達自身がどのように考え、行動すべきかを「講義頂いた。

三浦講師の理論的なお話、戸田講師の嫁・姑の話などを交えたユーモア溢れる講義は飽きる事なく、気が付けば閉講式という、あっという間の時間であった。講義中、三浦講師の東日本大震災



講習会後に記念撮影

における地震と津波によって聖徒の方を多数亡くされた体験談は、受講者全員の心を打ち、目頭を熱くして合掌する姿が大変印象に残った。付記すれば、三浦講師の御自坊も地震と度重なる余震により損傷が激しいが、行政の対応は遅く、いまだ復興の端緒にも就いていないそうである。尚、講習会終了後、妙正寺聖徒一同より「東日本大震災・復興義援金」が三浦講師に手渡された。十一月下旬の北海道は朝晩厳しい冷え込みとなり、雪もちらつく季節であったが、受講者一同熱い決意を誓いで信仰を持ち、弘めていく事を誓い、盛会のうちに講習会は無事終了した。

### 「名古屋支部研修会」を開催!

昨年十二月四日、名古屋支部において「支部研修会」が開催され、本部より新日蓮教学部長の小泉輝泰師(顕本寺聖徒団団長)をお招きし、

教学ならびに霊断法の講義を三時間にわたり受講した。

教学では整識観についてのご講義をいただき、霊断法の講義では一字一字の字義を細かく解説頂いた。

参加支部員は教学・霊断法ともに更に理解を深め、今後、より一層霊



小泉輝泰講師(本部・新日蓮教学部長)

断法を駆使した布教に努める決意を新たにされた。(記事・伊藤秀温)

### よろこびちゃんの質問箱



よろこびちゃん

#### 山号って何?

【お寺の名前に付いている〇〇山って何?】

お寺の名前には「山号」「寺号」「院号」という【山(さん)】があるの。

昔、お寺はみんな山の中にあつて、その山の名前を付けて『〇〇山〇〇寺』と呼んでいたのよ。

その名残りで、今もほとんどのお寺がこの「山号(さんごう)」を

持っているのね。(この山号は『扁額(へんがく)』として、お堂の前などに掲げられていたりするわ。総本山の久遠寺の門に『身延山』という、立派な額が掛かっているでしょ。)

その後、平地にお寺が建てられるようになってからも、それに倣(なら)って『〇〇山』という「山号」を用いるようになったということなのね。

また当時、大きなお寺には、その敷地内にお坊さんの住むたくさんの建物(たけ)が造られていて、その一つ一つを「院(いん)」や「坊(ぼく)」「う」と呼んだことから、生まれたのが「院号」や、今の「宿坊」と言われているのよ。

五月十一日、十二日はみんなだ宿坊に泊まって、日蓮大聖人様の棲(す)みお山・身延山にお参りして、感謝の気持ちを捧げましょう。



# 第三十回 日蓮大聖人の歩まれた道 虚空蔵菩薩への願い(その二)



総合研究所 教学研究部長 小泉 輝泰

「日本第一の智者となし給へと申せし事を、不便とや思し食しけん。明星の如くなる大宝珠を給ひて、右の袖にうけとり候し故に、一切経を見候しかば、八宗並に一切経の勝劣ほほこれを知りぬ」(清澄寺大衆中)

わずかに差し込むだけの薄明かりと、言葉を交わす者なき静寂。蓮長が虚空蔵菩薩の御前にて願を掛けてより、早二十日が過ぎようとしていました。そしていよいよ二十一日目の朝を迎えた時、不思議な光景を目の当たりにしたのでした。

それまで暗闇に包まれていた筈の堂内は突如として光り輝き、目にするものすべてが眩いばかりの金色へと変わって



総合研究所 霊研主任 新聞 信應

## 第二十回 よろこび 佛教語解説

### 『良医治子の喩』

いよいよ今月で法華七喩も最後となりました。七番目の喩えは『良医治子の喩』のお話です。この喩えは、法華経の十六番目、如来寿量品の中に説かれています。ある所に聡明な医者として、その子供たちがいました。ある日父の留守に、悪戯好きの子供たちは誤って毒薬を飲んでしまいました。それを見た父は、良く効く薬を調合し、子供たちに与えました。これを飲んだ子供たちは毒の害を得ましたが、半数の子供たちは、毒のために本心を失い、せつかくの良薬を飲もうと

きます。やがて正面の一層輝く光の中から、高貴な姿の僧が現れました。高僧は蓮長に向かって静かに左の手を差し出しました。その手には明星のように光り輝く宝珠を携えているのです。そこで蓮長は悟りました、「このお方は大虚空蔵菩薩に相違ない」。そう思うや否や、高僧は蓮長の衣の袖にその宝珠をそっと忍ばせ、再び光の中へ消えて行きました。

「ただ願わくば、日本第一の智者となし給え」。死を覚悟して寝食を断ち、心に折り続けた蓮長の切なる願いが、ついに虚空蔵菩薩の大慈悲の御心に届き、智慧の大宝珠を授かったのです。数日にわたる厳しい修行に衰弱しきった身体は、かろうじて心の蔵を動かすのみでしたが、しかしその心は大きな悦びに包まれていました。

眩い朝の日差しの中、満願を果たした蓮長は、一歩一歩お堂の階段を降りて行きます。そして最後の段を降りた時、突如どつと鮮血を吐き出し、そのままひれ伏すように倒れ込んだまま、意識を失ってしまいました。

通りかかった兄弟子たちは、その姿を見

しません。そこで父は何とかこの良薬を飲ませようと思ひ、「私はこれから他国に行くが、年老いているので途中で寿命が尽きるかも知れない。ここに良薬を置いて行くから、万が一の時はこれを飲みなさい」と言つて旅立って行ったのです。

やがて使者が来て、子供たちの父が病気で死んだことを伝えられました。子供たちはあまりの驚きと悲しみに本心を取り戻し、父が残してくれた良薬を思い出したのです。そして遂にこの薬を飲み、病を治す事が出来ました。それを聞いた父はすぐに家に戻ると、子供たちに自分の死は方便であつたことを告げ、子らを抱きし



るや慌てて駆け寄りました。そつと蓮長を抱き起こしたところ、ふと目覚めるように意識を取り戻しました。辺りを見れば蓮長が吐いたと思われ血の痕、蓮長が修めた行の厳しさを思えば、皆その身を案じずにはいられません。しかし蓮長は不思議と何の不調も感じることなく、却つて心身共に澄み切つた心地なものでした。

蓮長は凡夫の身に流れる血(凡血)をすべて吐き出し、清浄なる身としていよいよ新しい人生を歩み始めたのです。

この時に吐いた凡血は、周囲の笹の葉を真っ赤に染めました。以来この場所に生える笹には、血に染まったような不思議な斑点が現れるようになったのです。今でもこの清澄寺摩尼殿(虚空蔵菩薩を安置するお堂)の傍らでは、この逸話を偲ばせるような「凡血の笹」を目にすることが出来ます。



め欣喜したのでした。このお話の父とはすなわちご本佛であり、毒氣に本心を失つた子供とは、私たち衆生のことです。そして良薬とは、ご本佛の教えの神髄である、お題目を示しているのです。ご本佛の命は永遠であり、本来尽きることはありません。そして「末法の良薬」であるお題目を、常に私たちに留め置いて下さっているのです。

# 法華経のお話 20



総合研究所主任 塩入 幹丈

## 無量義経の段その十九

大轉輪王小轉輪王。金輪銀輪諸轉輪王。(無量義経徳行品第一)

①繁榮の世に骨董を集め、混乱の世に黄金を蓄え、世の末には修行を急げ(震旦の格言)

お釈迦様が入滅(お亡くなりになること)されて二千年過ぎれば、世は末法となつてしまふ。それはお経に説かれた恐るべき予言!時の流れと共にそれは来る!必ずやつて来る!

避けることもできず、この地上に限り、どこにも逃げ場はありません。

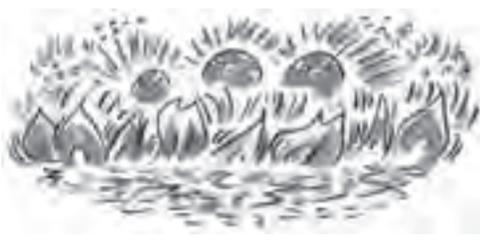
ことに末法が刻一刻と迫つていた平安時代。人々のおののき、恐れようと云つたら、あの一九七〇年代、ノストラムスの大予言にビビつていた小中学生のおののきの何千何万倍であつたことでしょう。

なにしろ当時はお念仏を唱えながら、夕陽と共に海や湖に沈んでいくことが一大ブームだったわけですから、その絶望感にはもはや異常!のレベルだったのです。

ここまですみ嫌われ、恐れられてきた末法時代。末法になればナニがドウなるかと言つてはどうですか?

②東に黒い太陽の昇るとき、ホビは雲母の家に向かい、世界は滅びに向かう(ホビ族の予言)

争いある処、災いも尽きません。恐ろしい疫病が流行し、天候が不順となり、暴風や強雨等が頻発します。そしてやがては天体の運行も異常になつていきます。遂には内乱が起き、さらに他国が侵略を開始します。災難が充満してくると、やがて太陽が二つ三つ等々と幾つも出現!します。草木は枯れ果て、川も大河も干上がり、大地はあたたかも炭のごとく、海もまた油のごとく燃えあがり、巨大な炎は全てを包みこんでいきます。③大きな星が七日間燃えるだろう。雲が二つの太陽を出現させるだろう(ノストラムス)



す。ここでポイントとなるのが、「人の心」です。「衆生の心けがられば土もけがれ、心清ければ土も清し」(一生成仏抄)と、大聖人もご教示される通り、この世の在り方は、すべて私たちの心の反映なのです。心が乱れることが、此の世の衰亡に繋がるわけです。

では、その心が乱れる原因は何か? それは正しい教えを知らない、無知にあります。末法とは正しい教えが廃れる時代。正しい教えを知らぬ故に人の心は乱れ、世の中全てが乱れるわけです。だからこそ、大聖人は当時続発した災害への対策として、「立正安国論」を発表されたんですね。

④主はかしこより来たりて、生ける者と死ねる者を審きたまわん(使徒信条) 終末が来るよと預言したイエスが、やがて天使を率いて自ら世界を滅ぼしにやつて来られると説くのがキリスト教です。

対して、末法が来るよと予言した上で、その末法での救いを説くのが佛教なのです。正しい教えが廃れた時代にこそ、届けるべき真実の教え。それが法華経のお題目です。その法華経、お題目を末法に説かれる方こそが、ご本佛お釈迦様直属のお弟子である、上行菩薩なのです。

しかしお釈迦様の時代と、上行菩薩が活動すべき時代には、二千年以上の開きがあります。当然その間には、お二方を繋ぐ仲立ちが必要なんです。その仲立ちを務められたお方、その御名を薬王菩薩。そう、あの天台大師、そして伝教大師の前世となる菩薩様というわけです。...



# よろこび法話

## 暑さ寒さも彼岸まで

お彼岸の七日間に「一善の小行」を心がけましょう



日蓮宗断師会 指導 指導員  
北海道沙流郡平取町  
照恵寺聖徒団团长  
品田 祥皓

「暑さ寒さも彼岸まで」

お彼岸が近くなると良く聞く言葉です。夏の暑さも秋のお彼岸になれば衰え、冬の寒さも春のお彼岸になれば薄らぎ、やがて穏やかな気候になる。季節の変わり目を表す言葉です。

今年是全国的に寒く、言葉通りにお彼岸が来ることを願う人は多いと思います。お彼岸は多くの仏教行事が、インド・中国から伝わった中で、唯一日本で生まれた仏教行事です。

古くは平安時代からありました。私たちが毎日、仏道に精進・専念することとは日常生活の中では非常に困難であり、どうしても滞りがちになり、ともしればさぼりがちになります。



そこで一年のうちで、一番気候が穏やかで修行のしやすい春分・秋分の日を挟んだ前後三日間の一週間を選び、自分たちだけではなく、永く続く子孫に対して修行の大事、ご先祖様への供養の大事を先人は教えて下さったのでしよう。ご先祖様の深い思いやりが感じられます。また、春分・秋分は昼と夜の長さが同じと言う事もあり、中道(二つのものから離れ、どちらにもとらわれない実践・方法)の考えも重なり、考えられたのかもしれない。

### 「一善の小行」

「この七日のうちに一善の小行を修せば、かならず仏果菩提を得べし。……彼岸一日の小善はよく大菩提に至るなり。誰人かこの時節を知りて小善をも修せざらん。」(彼岸抄)

大聖人はお彼岸には大きな意味合いがあるとされており、このお彼岸の七日間に「一善の小行」をしないと言われました。

「一善の小行」とは、どんなに小さなことでも進んでおこなう善行の事です。ぼたもちやおはぎを、自分のご先祖様にお供えする。近所にお分けし、近所のご先祖様にも供養をする。お墓参りをする。お寺参りをする。地域の活動に参加する。色々な事があります。自身にも、まわりの人にも何かをしてさしあげる。そうすれば、かならず仏様に近づく事ができると言われています。お彼岸はさとりを求めて修行に励み、善行を重ねて、仏様の世界に近づくことを目的にして生活致しましょう。

### 彼岸に近づく為の修行

「お彼岸が大切な事はわかるが、自分は何をすれば良いのか？」と、考える人も多くおられることと思います。

「六波羅蜜」(布施・持戒・忍辱・精進・禪定・知恵)の実践と言われますが、頭では理解できても、行動に表すと考えると難しいです。

私は、お彼岸の法要の時に必ずこう言います。「自分で何か一つ決め事を心に持ち、それを実行実現致しましょう」。

例えば、毎日お酒を飲む方や煙草を吸う人は、お彼岸の期間中、一日だけでも休もうと決める(持戒)。この決めごとを我慢(忍辱)して、心をおおらかに持つこと(禪定)を実践(精進)する。その結果、自分にもできた満足(知恵)した生活ができるのです。そして、これをお寺参りでご本佛様、お寺のご守護神様、大聖人様にご報告(布施)する。



これなら、誰もができる事ではないかと思えます。彼岸は決してどこか別の所にあるのではなく、私たちの日常生活の中にいつもあり、自分の心の中にこそあるものなのです。

### 四誓願の実践

『盛運祈願会』で、みなさんは「四誓願」をお唱えしていると思います。

「四誓願」の「持ち・行い・護り奉る」は私たちが仏様に近づく為の修行の誓いであり、「弘め奉る」は菩薩・仏様として、その働きを行う事の誓いです。

お彼岸にこそ、「俱生神月守」を着帯し、他の人にもお勧めし、感謝の気持ちを持ち、ご本佛様・俱生神様への誓いを実践し、仏道に精進致しましょう。

最後となりますが、本年「三回忌」を迎える東日本大震災でお亡くなりになられた方々にお題目をお供えし、一日も早い復興をご祈念申し上げます。南無妙法蓮華経。

## 日蓮宗断師会第四十八回全国結集身延大会について



今年の身延大会開催まであと二ヶ月となりました。先月各お寺に身延大会の案内並びに参加申込書をお送りさせて頂きました。皆様へはお寺のお上人を通じてご案内があること存じます。大会の流れにおいては、昨年同様の形式にて開催する予定ですが、より参加された皆様が気持ちよく、そして有意義な大会となるよう日々検討しながら準備を進めております。この身延大会は参加された皆様と共に造り上げる大会です。一人でも多くの方にご参加戴き、この四十八回の大会を圓成させたいと考えておりますので、皆様お誘い合わせの上多数のご参加をお待ち致しております。大会当日聖地身延山で皆様とお会いできることを楽しみにしております。

本誌イラスト 小川けんいち

**砥森山 法華寺**

生きて救われの道場

住職 阿部 是秀  
副住職 阿部 是眞

〒028-0304  
岩手県遠野市宮守町下宮守31-69-1  
電話 0198-67-3166  
FAX 0198-67-2227

**正立山 妙法寺番神聖徒団**

团长 新聞 信應

毎月1日 10時  
盛運祈願祭

お困り事はすぐ相談

神秘秘密の扉が開く時、必ず利益がいただける。

〒690-2404 島根県雲南市三刀屋町三刀屋1169  
TEL 0854-45-3657  
FAX 0854-45-3666

安房乃國隨一 三十番神祈願道場

**顕本寺聖徒団**

团长 小泉 輝泰

「1人で悩まず、まずは相談」

〒295-0002  
千葉県南房総市千倉町川合690-1  
TEL 0470-44-1062  
FAX 0470-44-1524

信用第一の専門店

◇格調高い関東風仏具◇

宗務院指定

仏壇・仏具 仏像彫刻  
内陣荘厳具 設計製作

**(株)中野三佛屋**

東京都台東区寿2丁目7の12  
電話 03(3843)6951  
FAX 03(3843)6973  
定休日 日曜日

手描絵、機械絵、冊子、広告、絵画、写真集、神絵、名刺、茶、意匠(デザイン)全般

**Syoumukou 昇夢虹**

株式会社 昇夢虹 (しょうむこう)

〒078-8801 北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号  
TEL (0166) 68-2004 FAX (0166) 68-2005  
<http://syoomukou.com>  
info@syoomukou.com